慶應義塾大学学術情報リポジトリ

Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	世襲代議士と選挙区:広島県二区を中心として				
Sub Title	Political families and their constituency : a case study of the Second District of Hiroshima Prefecture				
Author	市川, 太一(Ichikawa, Taichi)				
Publisher	慶應義塾大学法学研究会				
Publication	1988				
year					
Jtitle	法學研究 : 法律・政治・社会 (Journal of law, politics, and				
	sociology). Vol.61, No.12 (1988. 12) ,p.137- 163				
JaLC DOI					
Abstract					
Notes	多田真鋤教授退職記念号				
Genre	Journal Article				
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara _id=AN00224504-19881228-0137				

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

世襲代議士と選挙区

-広島県二区を中心として-

二区の特徴と代議士の得票構造 はじめに

おわりに 高得票の町と町議会議員

はじめに

広島県二区は全国有数の「世襲」選挙区である。例えば、過去三回の衆議院総選挙の結果にみられるように、全国

的にも第二ランクに位置している (第1-1表参照)。議席の世襲は最近顕著になった現象には違いないが、しかし「広 多くの政治家を輩出してきた。帝国議会開設以降、一〇〇年近くにわたって、このような現象が同一選挙区に観察で 島県の政治的家族」においてすでに明らかにしたように、二区においては戦前、戦中、戦後を通じて、同じ一族から (1)

Ш

市

太

あることを推測させる。 本稿は、現在の広島県二区に範囲を限定して、三人の衆議院議員、 池田行彦、 谷川和穂、 中川秀直の世襲の実態と

きるのは、

第1-1表 日本の世襲選挙区

平均				議員名	
占有率	選挙区	定数	第36回総選挙 1980/6	第37回総選挙 1983/12	第38回総選挙 1986/7
88.9%		3	竹内黎一 田沢吉郎 木村守男(ク)	竹内黎一 田沢吉郎	竹内黎一 田沢吉郎 木村守男
	埼玉4区	3	野中英二 三ツ林弥太郎 青木正久	三ツ林弥太郎 青木正久	野中英二 三ツ林弥太郎 青木正久
	香川1区	3	木村武千代 森木孝雄 前川 旦(社)	木村武千代 陈木孝雄 前川 旦(社)	木村義雄
75	岩手2区	4	志賀 節 小沢一郎 椎名紫夫	志賀 節 小沢一郎 椎名素夫	志賀 節 小沢一郎 椎名素夫
	秋田2区	3	川俣健二郎 笹山登生	川俣健二郎 笹山登生	川俣健二郎 笹山登生
	広島2区	4	谷川和穂 池田行彦 中川秀直	谷川和穂 池田行彦 中川秀直	谷川和穂 池田行彦 中川秀直
	山口1区	4	林 義郎 安倍晋太郎 田中龍夫	林 義郎 安倍晋太郎 田中龍夫	林 義郎 安倍晋太郎 田中龍夫
66.7	埼玉2区	3	山口敏夫(ク) 小宮山重四郎	山口敏夫(ク) 小宮山重四郎	山口敏夫 小宮山重四郎
	長野2区	3	井出一太郎 羽田 孜	井出一太郎 羽田 孜	井出正一 羽田 孜
	国山一区	5	大村譲治 逢沢英雄 平沼赳夫	大村譲治 逢沢英雄 平沼赳夫	大村譲治 逢沢英雄 平沼赳夫 江田五月(社民)
父・義 2) (ク)! い代議	父などが衆議 は新自由クラ 士は自由民主	院議員 ブを、 党を表	38回までの総選挙に であった者の平均で (社)は社会党を、(も	おいて、一つの選挙	江田五月(社員 区の定数において を、そして印のな

- 1) 平均占有率は第36回から38回までの総選挙において、一つの選挙区の定数において 父・義父などが衆議院議員であった者の平均である。
- 2) (ク)は新自由クラブを、(社)は社会党を、(社民)は社会民主連合を、そして印のな い代議士は自由民主党を表す。
- 3) 山田太郎(岡山1区・公明党) のように、弟が参議院議員全国区の場合は除いた。

二区全体を見渡せば、二四の町のうち実に一一町が島であり、五町は瀬戸内海に面している。

オレンジの自由化の脅威にさらされている島々は、瀬戸内海の自然環境を生かし、リゾート地への変身を計ろ

低迷

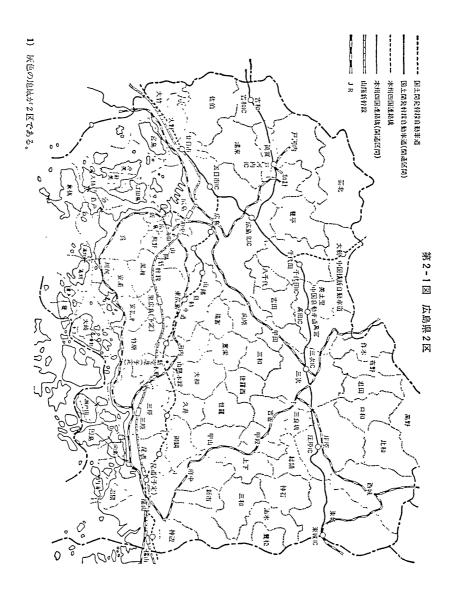
うとし、観光に期待をかけている。 (6) アンケート調査を行なった。 票率をあげている豊浜町、福富町、豊栄町とその町議会議員に焦点をあて、世襲代議士に高得票を与えている地域特 それを生みだし、維持している要因を、得票構造との関係において明らかにする。 七月から八月にかけて三町の町議会議員を対象にして、町議会議員の世襲と町議会議員の世襲代議士の支持に関する うなものだろうか。そして最後に、代議士職が受け継がれるときの重要な要因、 つけて考えてみる。集票の際に一定の役割を果たしていると思われる町議会議員と世襲代議士の支持関係は、どのよ これらの課題を解決するために文献以外に、町長や町政関係者、代議士秘書へのインタビュー、そして一九八八年(3) 町議会議員にも世襲は存在しているのだろうか。第三に、国会議員の世襲という問題を町議会議員と結び 地盤の意義を再考してみたい。 次に、各代議士のもっとも高い得

一 二区の特徴と代議士の得票構造

隣の町に新空港の開港が予定されており、広島市と福山市の中間に位置する第三の都市図に発展しようとしている。 中央テクノポリスの地域指定を受け、新幹線駅が開業した。高速道路・山陽自動車道のインターチェンジの開通や近 竹原市はかつては塩田の町として栄え、賀茂郡は広島県の米どころである。 二区には特徴のある都市が点在している。人口のもっとも多い呉は戦前は海軍の、戦後は造船の町として広く知ら 現在は造船不況の波を直接に受けている。東広島市には灘、伏見と並ぶ「酒都西条」がある。最近、広島

139

造船不況、



第2一	1 寒	2区の	一种的	別立候補者	当课

選挙回(年月日)	自民	党系	社会	党系	共產	正党	民社	土党	公里	 月党	新	自ク	その	の他	総計
	立	当	立	当	立	当	立	当	立	当	立	当	立	当	
22回(1946. 4.10)		2		2											
23 (1947. 4.25)	7	3	1	1	1	0							2	0	11
24 (1949. 1.23)	5	3	1	1	1	0							2	0	9
25 (1952.10. 1)	7	3	1	1	1	0			İ						9
26 (1953. 4.19)	4	3	2	1											7
27 (1955. 2.27)	5	3	2	1									ļ		7
28 (1958. 5.22)	5	4	2	0									1	1	6
29 (1960.11.20)	4	3	1	1	1	0	1	0					1	1	8
30 (1963.11.21)	4	3	1	1	1	0									6
31 (1967. 1.29)	4	3	1	1	1	0							1	0	7
32 (1969.12.27)	4	4	1	0	1	0			1	0					7
33 (1972.12.10)	4	3	1	1	1	0							2	0	8
34 (1976.12. 5)	4	2	1	1	1	0			1	0	1	1	1	1	8
35 (1979.10. 7)	3	3	1	1	1	0	1	0			1	0	1	1	7
36 (1980. 6.22)	3	3	1	1	1	0							1	1	6
37 (1983.12.18)	4	3	1	1	1	0							1		6
38 (1986. 7. 6)	4	4	1	0	1	0									6

- 1) 立は立候補者を、当は当選者を表す。
- 2) 自民党系には協同党、田民協同党、進步党、民主自由党、民主党を、社会党系には分裂していた当時の 右派、左派社会党を含む。
- 3) その他には諸派、無所属を入れた。
- 4) 当選時の無所属は当選後に所属した政党に算入した。

それ故、 して、 池 勇人の跡を増岡博之が一 あった加藤陽三は二回当選したが、 復に尽くした松本俊一は三回当選したが、 えていった。外務次官をつとめ、 後何人もの代議士たちが数回当選しては、 にとって激戦であることには変わりない。 保守系候補のうち一人は落選する羽目に陥る。 い時には七人の保守系候補が立候補している。 至るまで、 である。 士にとっても、 目民党結党以前も、 田は同じ派閥 年して、 連続して落選して退いた。 選挙の この傾向に 政界から引退した。 中選挙区に戻った二三回から現在 面 革新系候補が一人でも当選すれば、 勇人の娘婿が立候補した。 少ない時で定数四と同じ人数、 からみ 議席を維持するの ・宏池会に所属する。 層拍車をかけたのが、 れば、 結党以降も自民党候補 度は継 戦後 泡末ではない の二区 防衛事務次官で V だの は困難で 日ソ国交回 二回 一は激戦区 激戦 増岡 代議 口落選 池 ٤ 0

過去三回もある。定数四議席のうち、

理由はこれ以外にまだある。中川と谷川は同じ旧賀茂郡、しかも一つ隔てた町を出身地としているからである。 二区は激戦区にとどまらない。 保守優位の選挙区でもある。第2―1表に示したように、二二回の選挙を除けば、

自民党三議席、社会党一議席というのが典型的パターンであり、自民党が議席を独占した選挙は

党派別得票率の中にも、保守優位という特徴をはっきりと読み取ることができる。

中川秀直である。三人はいずれも自民党の代議士である。

以上のような保守的な政治風土のなかにいるのが、これから取り上げる三人の

「世襲」代議士――谷川和穂、

順を追って、三人の経歴を父、義父も含めて、紹介してみよう。

谷川和穂の父、昇は三人の中では最も早く一八九六年に賀茂郡西志和村、

現在の東広島市に生まれた。

父にしたが

年第二七回総選挙において当選するが、その翌日五八歳で急逝した。 局長、そして山梨県知事、内務省警保局長をつとめた。自由党政調会副会長が政治家としての経歴である。一九五五 ってアメリカにわたり、イリノイ大学、ハーバード大学大学院を終えた。 帰国後は、東京市役所に入り、東京都防衛

なった次の二八回総選挙には、全国最年少二七歳の若さで当選した。文教族の一員に数えられ、衆議院法務委員長、 Metoropolitan Government」という論文を提出して終え、ハーバード大学大学院に留学中に父を亡くする。父が亡く 和穂は一九三〇年生まれである。 慶應義塾大学大学院法学研 究科修 士課程を「Today's Problems in American

三代にわたって政治に携わっていることになる。一八九九年、豊田郡吉名村、 広島県が生んだ二人の総理大臣のうち一人、池田勇人は父が戸長であった。 したがって、三家族のうちでは唯一、 現在の竹原市に生まれた。京都大学を

文教委員長、防衛庁長官であった。

第2-2表 当選・落選・得票

第1世代	谷川 昇	池田勇人	中川俊思
生年	1896—1955	1899—1965	1903—1973
第2世代	谷川和穂	池田行彦	中川秀直
生年	1930	1937—	1944—
第22回総選挙			33185*
23	56477		25617*
24		61072	45523
25	32457	90091	27499*
26	3602 0 *	68387	55667
27	<42730>	62191	52213
28	44635	83913	43869
29	41226*	83817	54565
30	69912	74507	50602
31	51901		50995
32	64518		57145
33	50389	}	46063,*
3.1	48140*	63873	68212
35	69068	57906	53489*
36	72302	79417	81253
37	62124*	70839	63847
38	93578	71130	72114

- 総選挙の右の欄の数字は獲得した得票数である。 1)
- 2) *は落選の印である。
- アンダーラインは世代の交代を表す。 3)
- 第27回の谷川昇のく >は当選後の死亡を表す。

爆発的ブームを背景にして当選。三二歳 の落選した次の選挙から新自由クラブの

家族 家族とも若くして議員職を継いだという であった。 三家族を二世代にわたってみると、 は 同 議業から後継者を補充し、

国税局間税部長、大平大蔵大臣秘書官を経て、三九歳で代議士に当選した。 経済審議庁長官などを歴任した。 行彦は勇人と同じ大蔵省の出身である。 一九三七年神戸に生まれた。 旧姓は栗根。 池田勇人が亡くなって、一二年後のこと 東京大学法学部を卒業し、 広島

卒業し大蔵省に入り、

長い闘病生活を間にはさみ、

大蔵事務次官から、

代議士になっ

た。

通商産業、

大蔵、

国務大臣

中川家の養子になった。 である。 最後の中川俊思―秀直には官僚の経歴はない。 地盤は増岡博之がすでに継承していた。 中央大学を中退し、 日本経済新聞などの新聞記者であった。戦後第一回目の二二回、 俊思は竹原市新庄町の堀川家に一九〇三年に生まれ、 賀茂郡豊栄町

一三回総選挙につづけて落選し、二四回にようやく当選した。

八回当選したが、政務次官の経歴しかない。

た養子である。慶應大学を卒業し、 四年東京に生まれ、 記者から代議士への道を歩んだ。 秀直も義父のように、 旧姓は佐藤。 日本経済新聞 彼もま 俊思 九四 の

共通点を見いだすことができる。

第2-3表 2区の有権者数・比率の変化

372 0代 2世の方権省処 元年の支化						
	有權	者数	有梳者	の比率		
総選挙回	30回	38回	30回	38回		
広島市安芸区	,	46633 ^人		9.2%		
呉市	148891	166878	37.7%	32.8		
竹原市	23045	26610	5.8	5.2		
東広島市		58323		11.5		
安芸郡	106935	120023	27.1	23.6		
賀茂郡	57456	30434	14.6	6.0		
豊田郡	58165	60457	14.7	11.9		
市部計	171936	298444	43.6	58.6		
郡部計	2 225 56	210914	56.4	41.4		
総計	394492	509358	100.0	100.0		
豊浜町	3987	2716	1.0	0.5		
豊栄町	4910	4112	1.2	0.8		
福富町	2697	2430	0.7	0.5		

広島市安芸区及び東広島市は第30回総選挙当時、

俊思は四回、

秀直は一回の落選の経験がある。

世襲議員

は悠々と当選するというイメージがあり、

新人当選率は

池田勇人―行彦以外は谷川昇は一回、

和穂は三回、

中川

だ成立していなかった。

般的に高い。

例えば第三三回総選挙においては、

には広島市のべ 正確な比較はむつかしいが、 ら三八回までの間に約一一万四千人増えている。 個々の得票率をみる前に、二区全体の有権者数の推移を検討しておこう。第2―3表のように、 ッドタウン化した町がいくつも含まれているので、 市部での有権者は増加し、二区全体の六割弱を占めるまでになっている。安芸郡のな 町村の広島市への編入、東広島市の誕生(一九七四年)などによっ 都市化した町の比重はなおさら増している。 有権者は三〇回 カシ

占める郡部のウェ

イトは軽くなってしまった。

こういう町を含まない賀茂郡は半分近くまで有権者が減り、

豊田郡の有権者増加率もわずかにすぎない。二区に

選挙、

計三回の絶対得票率を比較してみよう。

した最後の選挙、

第二世代が受け継いだ最初の選挙、

そしてその後の変化をみるために最近、行なわれた第三八回

も変化しているのかをみてみればよい。

第

一世代が当選

それと 第一世 一の場

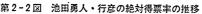
代の票を第二世代がそのまま継承しているのか、

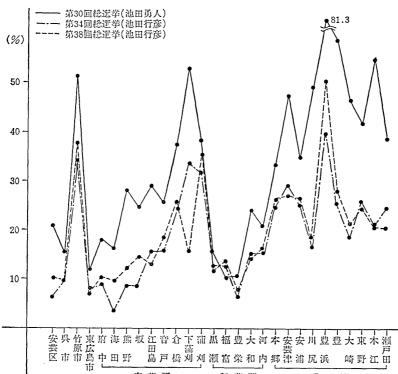
選挙は楽ではない。この点を検証するには、

「世襲」候補のそれは六四%であった。だが、二区

候補の平均当選率は二四・五%であったのに対して、

っても例外ではない。 一区が激戦区であることはすでに述べた。三家族にと 第2-2表に一目瞭然のように、





安芸郡 賀茂郡 豊田郡

勇人の跡を継いでいた増岡との間には

代にすぐに受け継がれたのとは違い、

一年経ってから、

行彦は立候補した。

図の通りである。

第一世代から第二世

者はこの問約一〇万八千人増えた。三

の選挙結果は第2―2表のような位

にとって最後の選挙は第三〇回

まず、

池田勇人―行彦である。

が初めての選挙は三四回である。

有権 行彦 勇人

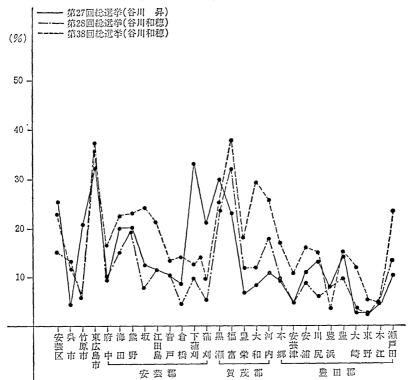
端なものではない。 置にあり、最高とか最低に位置する極

二人の絶対得票率の推移は第2―2

あつれきがあった。 三〇回と三四回の曲線を比べてみる

と、二人は勇人の出身地竹原市と隣接 いという共通性がある 瀬戸内海沿岸部、 島嶼部で強

率をあげたのは福富町だけに限定され 相違点は、行彦が勇人より高い得票



第2-3図 谷川昇・和穂の絶対得票率の推移

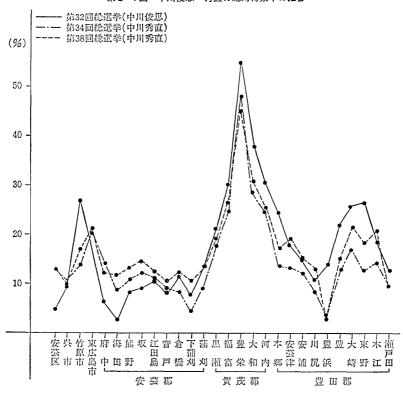
身地の東広島での得票が高いというの一3図が示しているように、両者は出の選挙まで、約三年経っている。第2の選挙まで、約三年経っている。第2

れる。

を伸ばしていることが、図から読み取残しながらも、広島市周辺の町で得票五回選挙をしてみると、全体の形状は

行彦も三〇回から四分の一世紀経ち

高得票率をあげた町の数である。勇人高得票率をあげた町の数である。勇人高得票率をあげた町の数である。勇人のに対して、行彦には豊浜町の五○・のに対して、行彦には豊浜町の五○・のに対して、行彦には豊浜町の五○・本が一つあるにすぎない。勇人が総理大臣であったからこのような得票構造になっているのかもしれないが、行彦の得票率は全般に低くなっている。



間に、約三〇年の期間があるにもか挙のグラフのカーブが、二つの選挙

わらず、酷似している。

除くと、和穂の二八回と三八回の総選をあげた。二世代の地盤とする地域を賀茂郡の四町において、父以上の得票群いて、反対に和穂は呉市、東広島市

Ď

は同じであり、

賀茂郡と豊田郡

の島嶼

部は比較的似た曲線を示している。

但

得票率を比べてみると、昇は和

穂

よりも安芸郡の倉橋、下蒲刈、

蒲刈

第2-4図 中川俊思・秀直の絶対得票率の推移

に、出身地の豊栄町を中心にした賀茂 得票率を示している。俊思は第三三回 得票率を示している。で、三二回を 総選挙に落選している。で、三二回を 比較の軸として選んだ。二人の間には 財れ目がない。この図は議席の継承の 要態を如実に表している。のまり二人 の曲線の間には、類似性がある。とく

秀直は安芸郡、呉市、東広島市などの都市部で得票を伸ばしているのが理解でき

候補者の個性がでてきているのがわかる。二人の曲線は類似しているけれども、

もう少し子細にみていくと、「世襲」とはいえ、中川秀直に限定されな

室2-4表 市町別平均得票率(第34-38回総選挙)

第2一4表	市町別平均得	38回総選挙)	
平均得票率	池田行彦	谷川和穂	中川秀直
40-50%	豊浜町		豊栄町
30-39	竹原市	福富町	大和町
20-29	蒲刈町 安芸津町	東広島市 大和町	福富町
	豊町	, , , , ,	河内町
	東野町		
	倉橋町 本郷町		

あげている。このような高得票をあげることのできる理由が何かあるのだろうか 町一市、谷川和穂は一市二町、中川秀直は四町において二〇%以上の高得票率を ることがわかる。五回の平均は、第2―4表が示しているように、池田行彦は七 るだろう。新しい票田の開発がなければ、秀直の当選はおぼつかなかったに違い 以上の各代議士の得票の図をみていると、いくつかの町で高得票を獲得してい

因を追究していけば、「世襲」の実像に一歩でも近づくことができるのでは ない か。現職の三代議士が三四回から三 .回の間にもっとも高い平均得票率を得た町・市との関係に限定して、高得票の原因を探ってみよう。

議席の継承が票の継承―地盤にほかならないとすれば、特定の町での高得票の原

池田の得票率が高い豊浜町は平均得票率は四七・九%である。勇人、行彦の出身地でもない。それでももっとも高

に当選した。 本町長が増岡支持から池田支持に戻らなかったために、町は池田派石井周助役 (当時) と増岡派岡本町長の二つにわれ い得票率をあげている。 たたかわれた。一二七九対九〇〇票で池田派が勝利をおさめた。翌年の町長選には石井助役が現職を破り、 池田が亡き後、増岡博之が地盤を継いだ。娘婿行彦が出た一九七六年の総選挙は、 当時の岡 町長

豊浜町長の部屋には池田勇人の大きな写真が飾られ、 近くの島を見おろす神社には 「日清・日露並支那事変及大東

郡の得票が多い。

いが、

第2-5表 衆議院議員と町議会議員の支持関係

先 2 ·	第2一5次 水磁抗磁質と可識五磁質の文符関係							
代談士名	豊浜町		宿	富町	豊栄町			
池田行彦	7 ^Å	58 .3 %	2^\	16.7%	2 ^{<i>A</i>}	14.3%		
谷川和穂			5	41.7	3	21.4		
中川秀直	٠.		3	25.0	2	14.3		
增岡博之	· 2	16.7						
回答なし	3	25.0	2	16.7	7	50.0		
総計	12	100.0	12	100.0	14	100.0		

信じている。票を多く出したことが勇人がよくしてくれた理由かもしれない。勇人から行彦へのバトンタッチまで一 ために尽くしてくれたのは離島振興法の成立をはじめ、数限りない。町の人も「池田さんが道路を作ってくれた」と に、当時の村議会議長、 人を応援するようになったのは、元内務大臣望月圭介以来、豊田郡出身の代議士がいなかったからである。 亜戦争」で亡くなった人たちのために「忠魂碑」という池田の筆になる石碑がある。 年間の空白があるにもかかわらず、勇人への恩義の意識は、娘婿行彦にも生きている。 町 議会議員は第2―5表のように、池田行彦支持七、増岡支持二名に分かれている。 町長が池田と同じ旧制忠海中学の出身だったからである。代議士になって以降、 そもそも豊浜町の 補足的に行なったアンケ 人々 池田が町 それ以上 が 池 田

川五 代議士は、 川の出身地に近い久芳地区に、それぞれの陣営の親類縁者が入り、 議院選挙を行なうということはない。谷川の出身地東広島市志和町に近い竹仁地区と中 川の得票率も町別では五番以内に入っている。 ではない。 る。三四 によれば、 八%の得票率をあげていた。同時に中川の出身地豊栄町に隣接しているこの町は、 福富町は谷川のもっとも得票率の高い町である。第一世代昇の生まれた町の隣町であ 中川三、 · 八%。 東広島市に合併する以前であれば、二八回と少し古くなるが、志和町で六八 豊浜町では町議会議員も受け継いでいることになる。 池田勇人、行彦を二代にわたって支持している町議会議員は六名いる。 池田二、不明二名程度の色分けはされているが、町議会を二分して、 他の二人に比べると、最高得票率は低い。池田と同じように、 町議会議員は衆議院議員との関係で、 票を求めて運動を展 出身地 世襲

票差の大小になって表れる。 (10)

一度できた町民と衆議院議員の支持関係は強固であり、

その時その時の勢いが

代にわたって高得票率をあげている。

妻の出身地であってもそれほど大きな意味をもつも

は二人にとっては本当の出生地ではない。

中川俊思―秀直がもっとも得票率の高い豊栄町では四八・三%をあげているが、

養子先の町である。

にもかかわらず、彼らは二

のだろうか

町議会議員は、

共産党議員を除く保守系無所属議員は一三名である。国会議員との支持

	豊浜町	福宮町	豊栄町
後払会への入会	77.8	90.0	62.5
事務所での手伝い	1	20.0	12.5
投票の依頼	77.8	60.0	62.5
その他		10.0	

- 表の数字は回答者のうちの比率(%)を表す。

話の糸口もできる。話しやすい、親しみを感じる。要望も聞いてくれる。」というわけである。この積み 1) 回答は複数回答である。 同じ地域の出身の人がいれば、自然とその人の所に行くのではないだろうか。 として、同じ地域ということをあげた。「政治の話にかぎらず、何か頼みにいくとしたら、 を二分してまで選挙を繰り広げるというわけではない。町のある人は中川が票の多い理由 も違いすぎ、表は実態を表しているとは言いがたい。この町でも福富町と同じように、 関係は第2―5表の通りであるが、アンケート回収率は悪く、しかもインタビュ 出身地が同 ー結果と 町

重ねが二代にわたって中川への親しみを増している。

じであれば、

る。 豊浜町が、 候補者の事務所に行って手伝う」は強度三ということになるだろうか。 の項目にすべて○印をつけている。この二人を除けば、強度二の投票の依頼にとどまる。 「後接会に入会している」が支持強度一とすれば、「自分の支持者にも投票の依頼をする」は強度二、「選挙の際、 国会議員と町議会議員の支持関係がもっとも強いということになるのだろうか。 福富町の中川代議士支持議員二名がこの三つ 投票の依頼がもっとも多い

町議会議員の国会議員への支持の度合をはかるのはむつかしいが、三町における支持関係は第2―6表の通りであ

この町

アビを目印に漁をする。

三 高得票の町と町議会議員

三代議士が高得票をあげつづけた三つの町 | 豊浜、 豊栄、 福富町を分析するのが、この節の目的である。(2)

(一) 豊浜

〈栂莓、

に乗り移らねばならなかった。 ている。町は瀬戸内海に浮かぶいくつかの小島からなっている。高度成長の始まる頃、島に着くには、船から伝馬船 広島の宇品港から愛媛県今治行き高速船に乗って豊浜町まで、一時間一七分。途中の呉までは工場が沿岸に点在し

である。その勢いは一向に衰えそうにない。高齢者もすでに二割を超えている。 人口は一九五〇年代をピークに減りつづけ、現在は約三五〇〇人。三〇年前に比べると二分の一になった過疎の町

も多い。県内きっての漁業の町である。地元の漁場で漁をする人は少なく、大多数は長崎、鹿児島にまで出漁する。

主要な産業は水産業。広島県内の町のなかではもっとも漁業従事者が多く、五トン以上の船を所有している人の数

そのため、島には老人と子どもが残ることになる。子どもたちのためには学寮がある。(四)

斎島周辺では渡り鳥アビを使った漁をしているので有名である。アビが鯛やすずきの好物イカナゴを食べるために、

由化に備え、 瀬戸内海の他の島と同じように、みかんの産地でもある。農産物の八割強をみかんが占める。農業ではオレンシ自 みかんの高品質化、四季を通して果物の島となるように作目の多様化を、漁業では漁協の一本化、

体制の確立、 まだい、あこう、すずきなどの高級魚の産地をめざしている。さらに高知と同じ気候をもつ斎島を海の いる。

かに高い。

第二次産業の人口が倍になっているとはいうものの、

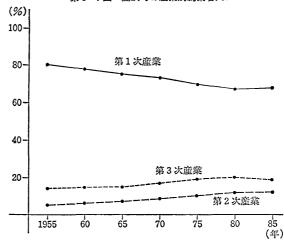
産業別就業者人口は第3―1図のように、

第一次産業人口が減り、第二次、第三次人口が増加している。とくに、

他の町に比較すると、第一次産業への依存度は依然としてはる

保守度をみるのに重要な持家率は、六〇、七〇年代と少しずつ上昇し、八五年現在九二・九%が自分の家を持って

第3-1図 豊浜町の産業別就業者人口



ーズである。 町は長期計画を策定中であり、 一九八八年大崎下島と豊島を結ぶ橋の建設にとりかかる。

ハーバーパークを県と作る予定で

軽井沢にしようとしている。「味と香り の ある島」

がキャ

ッチフレ

第3-1表 豊浜町町議会議員

職業	19	961年	19	987年
農業	11 ^人	52.4%	4 ^人	33.4%
漁業	2	9.5	1	8.3
自営業	7	33.3	6	50.0
会社員			1	8.3
団体役員	1	4.8		
議員数	21	100.0	12	100.0
談員年龄	47	7.1茂	51	1.5筬
当選回数			4	1.3回

議員年齢・当選回数はそれぞれ平均である。

〈豊浜町議会〉	
❖	

議会の特徴を明らかにするために、一九六一年と一九八六、八七年の議会と

減員をして一二名になっている。こ

第3-	り実	政治家と	の姻戚関係

		豊浜町		福富町		豊栄町	
町議会議員定数		12 ^Å	100.0%	12 ^Å	100.0%	14 ^人	100.0%
親戚に政治家がいる		8(6)	66.7	4(2)	33.3	4(2)	28.6
	町議会・村議会議員 町長	8	66.7	2	16.7	3 1	21.4
内訳	国会議員			1	8.3		
	記入なし			1	8.3		
	戦後政治家であった者	8	66.7	2	16.7	3	21.4

-)の数字は父、または義父が議員であった人数を示す。

の間、 を比較してみよう。(ほ) にも原因がある。 議員の法定定数は一六であるが、現在、 議員数は半数近くに減っていることになる。

映しているからであるが、議員定数が減って、若い議員が出にくくなったこと 議員の平均年齢は約五歳上昇している。これは町民全体の年齢の高齢化を反

農業を職業とする議員の後退が顕著である。代わって、自営業が議員の半数を 議員の職業構成は第3―1表の通りである。第一次産業従事者の減少以上に、

占めている。漁業が豊浜町の代表的な産業であるにもかかわらず、

漁業を職業

会議員であった。六六・七%が政治家族ということになる。この傾向は、 九八七年現在、一二名中六名が父、一名が兄、一名が義兄が町議会または村議 とするものはわずか一人しかいない。 興味深いのは、 姻戚に政治家をもつ議員の比率である (第3-2表参照)。

政治家族は国会議員だけではなく、この豊浜町議会議員のレベルにもみられる。 の選挙でもさらに強まりそうである。八人の親戚ともすべて戦後議員であった。 議員の職業的背景は変化しているにもかかわらず、同一家族が議員を補充す

る源となりつづけている。

の議員からだけで構成されている。

議会の静態性を象徴する指標は、他にもある。 町長選は、一九六九年の町制施行以来五回のうち四回まで無投票であった。さらに、豊浜町議会は保守系無所属 無投票である。一九八七年四月の町議会議員選挙は無投票であった

福富町

福富町は特別天然記念物オオサンショウオの生息地として知られ、八〇・七%の面積が林野である。冬には三〇セ

ンチ程度の雪が数度降る

である。山陽自動車道が開通すれば、車での所要時間はずっと短縮されるだろう。 広島市内からはJRで西条まで三二分、そこから福富町へはバスで三五分かかる。

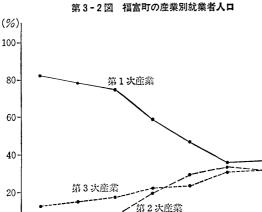
バスの本数は一時間に一一二本

ものはない。農業生産額では、半分が米であり、これに一○数戸の酪農家が生産している生乳と肉用牛を加えると七 産業は生産額でみると、工業がトップである。コンクリートの工場や縫製工場などが主で、目だった産業といえる 人口は約三一〇〇人。一九六〇年代と比べると、人口は三三%減少した。高齢者の割合は二三・三%である.

んで愛着を感じ、自然環境を愛し、これからもひきつづき住みたいと考えている。 町の実状を知る上では、一九八七年三月に行なわれたアンケート調査が参考になる。(空) 町民の多数は福富町に長年住

着工されず、二一世紀近くにならなければ完成しない。町はこれに合わせて、様々な計画をたてている。そして福富 上で障害になっているのが、町の中心部に作られるダムである。広島県は一九七四年にこの計画を発表したが、 一九七八年に町は長期総合計画を策定し、「緑あふれる町づくり」を進めている。 しかし、発展計画を押し進 める

世襲代議士と選挙区



70

75

==: ==: =:%.

第3-3表 福富町町議会議員

65

60

1955

職業	1961年		1987年		
農業 自営業	11 ^人 3	78.6 [%] 21.4	11 ^人	91 .7[%] 8. 3	
議員数	14	100.0	12	100.0	
議員年齡	50.1歳		57.6歳		
当選回数			2.0回		

1) 議員年齢・当選回数はそれぞれ平均である。

ス道路の整備をするとともに、 広島中央テクノポリスの協同圏域のなかにあるという地理的位置か 将来は東広島市のベッドタウンとなる方向を模索している。

ら、

広島新空港、

山陽自動車道へ

のアク

セ

〈福富町議会〉

町

は、

議員数は一二名。 九六一年と比較すると(第3-3表参照)、議員の平均年齢は約七歳上昇している。 本来の議員定数は一六名である。 したがって、 定数が四名削減されていることになる。

福富町議会議員の代表的な職業は第3―3表のように、農業と自営業である。六一年と八七年の間に、 80 85 **(**年) 業を職業とする議員は一二名中一一名まで占めるまでになっている。 の従事者は第3-2図のように半分以下になっているのに、 第一次産業 逆に農

父親が議員であった者は二名、 その他の親戚二名である。 比率は

155

助役を経験した町長である。

に対立候補がいなかった。無投票の原因を「誰がやっても変わりばえがしない」とみているのは町の職員、(9) 文夫町長は二回無投票で当選した。一回目は選挙の告示二日前に、前町長が広島県議会賀茂郡区補欠選挙において票 のとりまとめなどのために、現金六〇万円受け取った疑いによって逮捕されたために急遽立候補することになり、他 この町ではむしろ、町長選が一九七六年以来過去四回つづけて無投票であったことの方が注目に値する。 収入役

\equiv 豊栄町

地でもある。 豊栄町は地図でみると広島県のほぼ中央部に位置し、広島、島根の主要な河川――太田川、江の川、 西条町から行くと、福富町の一〇分程度奥にある。りんごを作っている農家もある。 沼田川の水源

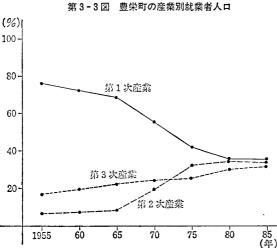
の選挙においては、 町役場は木造の平屋建てで、正面には「民主政治はきれいな選挙から」という大きな看板が立っている。 町議会議員選挙は定員の一・二から一・五倍の立候補があって、激しい選挙が行なわれているせ 過去四回

いだろうか

ある工場では町の出身者は四○%にすぎない」と町の企画課長は分析している。 っても働く場所がないというのではなく、希望する職種がない、遊ぶ場所がないということではないか、その証拠に、 人口は約五二○○人。他の二町よりは規模は大きいが、ここも過疎の町であり、 高齢者の町でも ある。 「過疎とい

るが、 と農機具メーカ 工業の年間出荷額は五一・五億円。そのなかの主なものは、高度経済成長の時代に進出してきたマツダの関連企業 第一次産業従事者がわずかに多い。農業生産額のなかでは、米が七割弱を占める。 1 (佐竹製作所)である。 産業別就業者人口では第3―3図のように、どの分野も似たりよったりであ

現佐々木



第3-4表 豊栄町町議会議員

職業	1961年		1986年		
農業	15 ^人	68.2 [%]	7 ^人	50.0%	
自営業	4	18.2	5	35.8	
会社役員	2	9.1	1	7.1	
会社員			1	7.1	
団体役員	1	4.5			
議員数	22	100.0	14	100.0	
議員年龄	50.1茂		57.2歳		
当選回数			3.2回		

1) 議員年齡・当選回数はそれぞれ平均である。

離がある。 中央テクノポリス、 かつて乃美中学校、 今年度末までには長期計画が策定される。 森本女学校、 新広島空港、 芸陽バスの本社があり、 山陽自動車道の波及効果を期待しているというものの、 当面は庁舎の建て替え、 町にも活気があったが、今はその面影もない。 総合文化センターの建設を含んだ町全 福富町以上に地

理的に距

〈豊栄町議会〉 議員数は一四名、 定数より、 八名減員している。

体のゾーンづくりが課題となっている。

85 **(**年) 産党議員が誕生した。 議員全員無所属ではあるが、 平均年齢は五七・二歳。

九八六年の選挙から女性議員と共

九六〇年当時と比較すると、 職業的背景は、 第3-4表にあるように、 町民の高齢化と比例しているのだろうか 七歳上昇している。

一四名のうち農業が七

父も議員であった者は二名。この中には元小学校校長の女性議員がいる。したがって、父、義父が議員であった者 自営業が五名である

を含め、政治家を姻戚にもつ議員は二八・六%である。町議会議員から町長になった現職の吉川智男の父も、

二年から四年間町長をつとめていた 町議会選挙は過去四回行なわれたのに対して、 町長選挙は四回連続無投票であった。

四 おわりに

持の理由であった。(22) が多かったために内部の結束が強まった」からであると述べたジャーナリストがいた。豊浜町においては池田勇人と かったが、二区の瀬戸田町では、前町長が内務省の警保局長時代の谷川昇から恩義を受けたというのが、谷川和穂支 町長が同窓であり、池田が豊田郡の出身であったというのが、高得票率の理由であった。本稿ではとくに取りあげな かにあった。例えば、呉において戦前政治家族の占める割合が高かったのは「海軍工廠があって、外部からの流入者 なぜ政治家族が生まれ、維持されていくのだろうか。本稿との課題においては次のような意見がインタビューのな

の父や義父が生まれた町であるから、彼らに一票を投じる。票を獲得する側では、出身町を拡げ、 なっているのが「同じ町の出身者を支持するのは自然ではないか」という素朴な意見である。有権者は代議士が、そ つながりのネットワークである」と定義されているけれども、地盤とは選挙区内の固定した得票を指す。 に、地盤は「特定の政治家のために、選挙での集票を目的として一定地域において形成される、個人的な人間関係の これらのなかで代議士を支持するきっかけになった理由を整理してみると、地盤が重要であることがわかる。 (②) 出身町に隣接した この源泉と 一般

一九六

町 さらには郡や市までも地元にしようとする。有権者も政治関係者もわが郡の出身者を国会議員に、(25) 同窓生であるということも、議員を送り出す積極的な理由となる。集票のために作られたのではない人間関係 ということに

も含め、一度できた支持関係は世代をこえて継承されていく。

二区においては中川俊思と秀直の得票パターンは、地盤が継承されるということを実証している。(②)

秀直は都市部において、 但し、得票構造が二世代にわたって酷似していても、地盤をそっくりそのまま受け継ぐことができるわけではない。 和穂は一〇くらいの町市において第一世代よりも高い得票率をあげた。池田行彦は勇人が総

理大臣であったせいか、「縮小再生産」という曲線になっていた。

そして池田行彦が豊浜町において五〇・八%の得票率をあげてはいるが、それでも、全体的にみれば、第二世代は第 地の豊栄町において、五五・二%を得ていた。ところが、第二世代の谷川和穂が東広島市や福富町において父以上の、 一世代よりも、 さらに、地元票が次第に弱くなっているということにも注目しておく必要があるだろう。第二世代は第一世代のよ また、世代間よりも、自分が初めて出た選挙と最近の選挙の得票パターンの方が、第二世代においては似ていた。 竹原市、蒲刈、豊、木江町において五〇%を越す得票をあげた。中川俊思は池田ほどではないにしても、出身 一つの町や市において大量得票することはなくなった。池田勇人は豊浜町で、八一・三%の得票率をはじめと 一つの町においてあげた得票率の低下は否めない。地元意識が全体として希薄になりつつある証左で

高いというのが第一の特徴であった。第一次産業人口の比率の高さも共通点であった。言うまでもなく、持ち家率も の役割も見逃せない。 もう一つのテーマ、世襲代議士に高い得票を与えている町に共通する地域特性については、 このようにみていくならば、国会議員、 誰それの息子ということで、有権者がすでに知っているという「知名度」 過疎と高齢者の比率が

つの大きな要因に違いない。

みると、農村から都市へ若年層が流出し、農村には「古さがより沈澱してきている」――これが世襲を残している一(8) 高 かった。 しかしながら、町は貧しく代議士に期待をかけなければならないというわけではなかった。 地域特性から

った。ある調査によれば、近親者が戦前議員であった地方議員は二四%、戦後そうであった者は三四%であった。近 町議会議員の世襲という面はどうだろうか。豊浜町は六六・七%、豊栄町は二八・六%、福富町は三三・三%であ

島の町議会議員は世襲度が高いというのが、世襲選挙区二区の特徴となるかもしれない。(33) なかった。むしろ、世襲度の高さは瀬戸内海の島の町議会議員の共通点かもしれない。調査をさらに進めていけば、 言えない。 親者というのは父や義父より広い定義であるが、豊浜町以外では、とくに世襲議員が平均的地方議会よりも高いとは したがって、世襲代議士に高得票を与えている町が、すべて町議会議員でも世襲度が高いというわけでは

会の例にみられるように、町議会議員が二代にわたって同じ代議士一族を支持しつづけていたことも忘れてはならな い。代議士の世襲を強化する重要な要因である。 世襲という現象が、ただ単に国会議員と町議会議員の両方のレベルに存在しているというだけではない。 豊浜町議

の革新系談員を除けば、残りは保守系無所属というのが世襲代議士に高得票を与えた町議会の現状である。 ことにも問題が潜んでいるように思われる。町議会議員の大多数が農業、自営業従事者で占められ、所属政党も一人 過去五回のうち四回までが無投票であった。町長選の無投票が政治が静態的であることを示すかどうかわからないが、

政治との関連では、無投票も特徴の一つにあげられる。町長選が過去四回無投票であった町が二つ、残りの一町は

- (1) 市川太一「広島県の政治的家族」(『修道法学』第七巻二号、一九八五年)。
- 2 第十巻二号、第十一巻一号、一九八八年)。 市川太一「日本の政治家族―その出身家庭と政治家への動機」(一)(二)(三)(『修道法学』第九巻二号、一九八七年、

- 3 町村選挙結果調』(広島県選挙管理委員会編)を参考にした。 回の各回を、市町村選挙については、広島県選挙管理委員会が所蔵する一九七三年から一九八七年までの該当する年度の『市 一九八六年、及び『衆議院議員総選挙結果調』衆議院事務局編、第二七回、二八回、三〇回、三四回、三五回、三六回、三七 選挙結果は次の資料・ ——『第38回衆議院議員総選挙結果調·第14回参議院議員通常選挙結果調』広島県選挙管理委員会**、**
- (4) アンケートは三八通郵送し、二六通の回答をえた。回収率は全体で六八・四%、町毎のそれは 豊浜町七五%、 福富町八

三・三%、豊栄町五七・一%であった。

- 5 述べている。「新時代・せとうち経済圏」(18)(42)(45)『日本経済新聞』一九八六年四月一六日、一一月一二日、一二月三 前日本開発銀行広島支店企画調査課長は「瀬戸内海は常に時代の流れ、 節目を反映している象徴的な地域と思われる」と
- (6) 同右(4)(18)、一九八六年四月一六日、五月二一日を参照。
- (7) 青木康容「議会への道―新人議員と世襲議員」『国会議員の構成と変化』政治広報センター、一九八〇年、八四ページを
- (8)「二世議員の土壌」『朝日新聞』一九七九年一○月一○日、一四日を参照。
- (9) 町長インタビュー (一九八八年七月一三日)。
- (①) 町長インタビュー (一九八八年七月一五日)。
- (11) 町政関係者インタビュー(一九八八年七月一五日)。
- 12 各町・市の現況を知るには『広島 21世紀わがまちづくり』広島県編、一九八七年が便利である。
- (1) 『瀬戸内海』(上巻) 中国新聞社、一九五九年、三四ペーシ。
- (4) 『芸南地方 瀬戸の島』中国新聞社、一九七八年、二八ペーシ。
- (15) 『香りと輝きの町づくり』豊浜町、一九八八年。
- 国新聞』に掲載された選挙結果を基にして作成した。 ついては一九八七年四月二二日、福富町については一九八七年一一月二五日、豊栄町については一九八六年一○月六日の『中 『広島県自治名鑑』広島県町村議会議長会発行(一九六一年)には議員の職業、略歴、住所が掲載されている。豊浜町に
- <u>17</u> 『広報』ふくとみ』福富町企画課、一九八七年六月一九日、及び『まちづくりに関する町民意識調査』福富町、一九八七 町長インタビュー(一九八八年三月五日)。

いるのも、それを裏づけている。 年を参照。福富町の四地区計九四六票配布され、回収率は八八・一%であった。詳しい数字を紹介すると、福富町を「住みよ 五%)があげられていて、住民の福富町に対する意識をうかがわせる。約八割の人が今後も住みたいという定住意向をもって い」と評価している住民は約七割いる。その理由としては「長年住みなれて愛着がある」(六二%)、「自然環境がよい」(四七・

- (1) 『中国新聞』一九八二年四月一○日、一二日、一三日、九月一日。 追徴金六〇万円の有罪判決を下した。 広島地裁は福本前町長に対して懲役一年、
- (20) 一九八八年七月一八日インタビュー。
- (21) 『戦後広島保守王国史』(渓水社、一九八三年)の著者、林立雄の説明。
- (22) 町長インタビュー (一九八八年三月二二日)。
- あげている。三木武夫の選挙区徳島では「三〇年間、山型の模様はほとんど微動だにしない」。セイヤー『自民党』雪華社、 する伝統的なやり方である。これに対して、水平型はまんべんなく集票する。石川は地元票を変わらぬ構造の代表として取り 一九六八年、八一一八五ページ及び、石川真澄『戦後政治構造史』日本評論社、一九七八年、一六一一一六五ページを参照。 セイヤーは地盤を二つのタイプに分けている。一つは山型である。これは出生地や特定の地域から集中的に得票しようと
- 若田恭二『現代日本の政治と風土』ミネルヴァ書房、一九八一年、二四ページ。
- する地元意識」。富田が重視しているのは第三の意識である。 五ページ)のなかで、地元意識を次の三つに類型化している。(一)「地元利益を願って形成される意識」、(二)「ダイレクトに 個人的な恩恵授受やパーソナルな付き合いを通じて形成される地元候補としての有権者側の意識」、(三)「"身内意識』に由来 代議士秘書インタビュー(一九八八年七月二〇日)。富田信男は『議会政治への視座』(北樹出版、一九七八年、一二——
- り相続するのである」と述べている(『戦後政治構造史』一六七ページ)。 例えば石川真澄は「この(=血縁による)相続は、父親の出身地を中心とする地域の得票率をそっくりそのまま、文字通
- (27)「地元意識というものは都市部にいくにしたがってうすくなる」と述べているのは、セイヤーである(『自民党』八三ペー ジ)。石川は地元票は大都市部になるとほとんど消えてしまうと分析している。農村部ほどではないにしても、東京八区のよ うに古くから発展した町には地元票は存在する。

 『戦後政治構造史』一六四―一六五ページを参照、
- (28) 石田博英『私の政界昭和史』東洋経済新報社、一九八六年、二二七ページ。
- 黒田展之編『現代日本の地方政治家─地方議員の背景と行動─』法律文化社、一九八四年、一〇ページ。但し、この調査

(3))例えば、二区にある瀬戸田町や倉橋町にも同じような傾向がみられる。七・四%であった。 七・四%であった。 とうでは大都市中核、大都市近郊、地方中核、農業過疎の四地域に分類された二一市二区一町、九四〇人を対象にし、回収率は四

- 停えげ 二回のある薬戸日田を全様田のを司(しょえばらえる)の

[付記 本稿は一九八七年度広島修道大学総合研究所研究費による研究の一部である。]